

論文審査の結果の要旨

氏名：松 尾 礼

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：睡眠時間と心血管代謝危険因子との関連性における性差の検討

審査委員：（主査） 教授 鈴木 正 泰

（副査） 教授 兼板 佳 孝 教授 奥村 恭 男

教授 阿部 雅 紀

これまで、短時間睡眠および長時間睡眠は、動脈硬化性心血管疾患の原因となる心血管代謝危険因子（腹囲、血圧、脂質代謝、および糖代謝）の悪化と関連することが報告されている。しかし、睡眠時間と心血管代謝危険因子全般との関連性を同一の対象について包括的に検討した研究はなく、その関連性の性差についても不明な点が多い。

このような背景から、申請者は、健康診断目的で日本大学病院健診センターを受診した就業者が大部分を占める 9,332 名（男性 5,073 名、女性 4,259 名）を対象に、睡眠時間と心血管代謝危険因子（腹囲、収縮期・拡張期血圧、血清低比重リポ蛋白コレステロール [LDL-C] 値、血清高比重リポ蛋白コレステロール [HDL-C] 値、血清中性脂肪値、血清 non-HDL-C 値、空腹時血糖値、およびヘモグロビン A1c[HbA1c] 値）との関連を男女別に横断的に検討した。その結果、男性では短時間睡眠が空腹時血糖の上昇と、長時間睡眠が血清 non-HDL-C 値の上昇と関連し、女性では短時間睡眠が腹囲の増加、HbA1c 値の上昇、収縮期血圧の上昇と関連することを明らかにした。

本研究は、就業世代を対象に睡眠時間と心血管代謝危険因子全般との関連性を包括的に検討した初めての研究である。この世代において、短時間睡眠および長時間睡眠は、各危険因子に対して異なる関わりをもつとともに、その関連性には性差があることを明らかにした。本研究の結果は、日本の就業世代における動脈硬化性心血管疾患の予防の上で、短時間睡眠および長時間睡眠の背景にある生活習慣や睡眠障害に着目する重要性を示すものであり、公衆衛生の向上に寄与するものと考えられる。また、本研究はこのテーマの研究を進める上で性差に着目する重要性を明らかにした点で医学的価値が高い。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 3 年 2 月 17 日